

平成25年度 学校評価

本年度努力事項に「子どもの学習意欲を高め、学力の向上をめざすため、授業内容・指導方法の工夫改善を図る」ことを掲げている。児童の学力向上が本校最大の課題である。そのため、基礎的・基本的な知識や技能等の定着を図るとともに、教師の指導力を高め、一人一人の子どもの発達に応じたきめ細かな指導を行うとともに、児童が学ぶ喜びを味わい、生き生きと活動できるような学校、学級づくりをめざし、その達成に向けて努力してまいりました。以下、学校評価により明らかになった内容を報告します。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 授業の改善に取り組み、学力向上を推進する	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の推進 ・全教員が年1回以上指導案を作成し、授業公開。 ・兵庫型教科担任制による少人数授業。 ・学年での教材研究を綿密に行う。 ・夏季休業中にサマースクール13講座を実施。 ・独自の明城漢字ドリルの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の推進 ・授業改善を図るべく、一人一授業等進めることができている。 ・少人数授業の改善が進んだが、各学級で個に応じた指導について、きめ細やかな指導がまだ十分に行えているとはいえない。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の推進 ・学力に関する客観的なデータを残して分析していくことは、有益なので、大きな負担がかからないよう学力向上委員会で検討していく。 ・明漢ドリル、検定テスト等の取り組みをさらに充実させたい。 ・個々の力を伸ばすため、トークタイムの設定について検討していく。 ●学力向上・特別支援教育 ・学生ボランティアを積極的に募り、活用を図っていく。
(2) 校種間の連携に取り組み、滑らかな成長を推進する	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週明城漢字検定テストの実施。 ・毎日8:30～8:40に朝の学習タイムを設定。 ・道徳教育を推進し、落ち着いた環境で学習。 ●校種間の連携 ・小中連携の研修会の開催。 ・幼小交流で行事を計画・実践。 ・小高連携の事業を計画し、実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基盤である「早寝・早起き・朝ごはん」といった基本的な生活習慣が不十分な家庭が多い。 ・学力調査の結果では漢字の力がついてきている。 ・朝の学習タイムに、読み書き、計算の時間を確保している。 ・各学年の学力状況を客観的に把握する必要がある。 		
(3) 特別支援教育の充実に取り組み、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育の推進 ・心の教育特別支援員、学習支援員(学生ボランティア)による個に応じた支援。 ・特別教育推進委員会の定期的な開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校種間の連携 ・幼・小・中・高合同で職員交流や交流行事を行い、学校園の間での連携も深まっている。 ・教科担任制は、学年内での児童理解が深まるが、時間割りに制約ができる。臨機応変の対応が必要である。 ●特別支援教育 ・心の教育特別支援員・学生ボランティアの活動は有益であった。 		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 道徳性の涵養に取り組み、良好な人間関係づくりに努める	3	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳性の涵養 ・道徳の時間を要として人権意識や道徳心をの向上を図り、豊かな人間性を育む。 ・兵庫県版道徳教育副読本の活用。 ・縦割り清掃やなかよしラリーなど異年齢集団での活動を通して、高学年は思いやりの心や責任感を育み、低学年は集団のきまりを学びながら人権意識の高揚を図る。 ・1年から6年までの縦割り活動を通して互いを思いやり、よりよい人間関係を構築する。 ・生徒指導部会を定期的に開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳性の涵養 ・道徳の年間計画を改善し、少しずつ取り組めるようになってきている。 ・縦割り活動を通して高学年は責任感をもって、集団をまとめようとする姿が見られる。また、幅広い人間関係の構築にも役立った。 ・心の教育支援の個別指導が効果的だが、対象となる児童も多く、配慮を要することも多いので、週2日の配置では十分とはいえない。 ・養護教諭からの睡眠についての授業は効果的であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣・情報モラル ・学校のルールや重点目標等について、生徒指導部を中心に再検討し、共通理解を深め、徹底していく。 ・携帯電話、スマホ等の使用について、危険性やマナーについて、学習すると同時に保護者向けに講演会等を行うなど、啓発活動を進める。
(2) 基本的な生活習慣の確立に取り組み、問題行動の未然防止を図る	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・1年から6年までの縦割り活動を通して互いを思いやり、よりよい人間関係を構築する。 ・生徒指導部会を定期的に開催。 ・担任を中心に専科教員、スクールカウンセラー、心の教育特別支援員、多文化共生サポーター等で常に見守り、きめ細かに声かけをするようにし、情報交換を行いながら指導する。 ・必要に応じて専門機関に相談し対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣・情報モラル ・IT機器の広がりに伴い、情報モラルについての指導を充実させたい。 ・生徒指導部会で様々な事柄について共通理解を図っているが、詳細について再確認し、徹底する必要がある。 ・休み時間、教師による見回り等により、トラブル防止につながっている。 		
(3) 相談体制の充実に取り組み、不適応行動への早期対応及び長期欠席の抑止・改善を図る	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・担任を中心に専科教員、スクールカウンセラー、心の教育特別支援員、多文化共生サポーター等で常に見守り、きめ細かに声かけをするようにし、情報交換を行いながら指導する。 ・必要に応じて専門機関に相談し対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談体制・長欠 ・SCの積極的な活用が図ることができた。 ・長期欠席児童への取り組みが難しい。 		
(4) 進路指導の充実に取り組み、社会的自立に必要な能力を育成する	2.5				

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 食育を通じた生活改善に取り組み、望ましい生活習慣を育成する	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや放送、学級指導等で手洗い、うがい、早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣を徹底させる。 ・毎朝の健康観察を通し子どもの体調把握する。 ・保健士による歯みがき指導を行うと共に、放送等で給食後のぶくぶくうがいの励行を促す。 ・保健だよりを発行したり、発育測定時にビデオや人形等を利用して学習をしたりして、生活習慣や健康についての理解を深め、啓発をする。 ・保護者による給食試食会や給食参観を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭によっては、早寝、早起き、朝ごはんの基本的な生活習慣が十分でないところがある。 ・行事食についての食育の学習や睡眠についての学習がよかった。 ・毎朝の健康観察で、児童の健康状態の把握がしっかりとできている。 ・保健だよりや食育通信は、毎月タイムリーな話題を掲載し啓発活動を行えている。 ・教師が休み時間に児童とよく遊んでいるのが、よい影響を及ぼしている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、基本的な生活習慣の定着に向けての学習を充実させていく。 ・体育の学習について、カリキュラムを見直し、年間計画を再検討する。
(2) 体育・スポーツ活動の充実に取り組み、体力・運動能力の向上に努める	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を通じてなわとびに取り組み、重点項目(低:あやとび、高:二重跳び)と時間跳びに取り組む。 ・体育大会や体力アップ大作戦(持久走・なわとび・マラソン大会)を実施し、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館が耐震化工事で使用できない時期があったが、年間計画を工夫し、体育の授業を進めることができています。 ・体育的行事が多く、学習内容にも偏りが見られる。 		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 安全教育の充実に取り組み、登下校及び校内の安全確保に努める	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ●登下校と校内の安全 ・登下校時における地域のボランティアの協力や職員の立ち当番により児童の安全を守る。 ・集団登校の実施。 ・各教室に安全ホイッスルの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ●登下校と校内の安全 ・ボランティアの方の登下校の見守りによって、安全が守られていることが多い。とてもありがたい。 ・廊下を走っている児童を多く見かけ、安全性が心配である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校での生活について、教職員で再度、共通認識を持ち、徹底して安全対策に取り組む。 ・不審者対応訓練では、さらに一歩進めて、警察等の外部組織とも連携を進め、日頃の安全対策を怠らないようにすると共に緊急時に対応できるようにする。
(2) 防災教育の充実に取り組み、危機管理能力の向上に努める	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年3回行い、職員と児童の防災に対する意識を高め、対処法を徹底をする。 ・不審者対応訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルを作成し、緊急時の職員の対応について共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等を持ち、食物アレルギーについて理解を深め、共通理解を図れた。 ・不審者対応訓練や職員へ期日を告知しないで行った避難訓練は有効であった。課題も浮き彫りになり、改善策を協議できた。 		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 地域資源の活用に取り組み、開かれた学校園づくりに努める	3	<ul style="list-style-type: none"> ●地域とのつながり・開かれた学校園づくり ・地域の協力を得て、生活科の学習や総合的な学習等において地域学習を推進する。 ・地域に出での活動(ミニトライやる・明城遺産等)や授業参観、オープンスクール、児童会活動(なかよしラリー・明城まつり・交通安全感謝の会)等を通して、地域との交流を進め、地域の方が学校に足を運びやすい環境を整える。 ・明城漢字ドリルや環境体験活動で、地域を知り、地域で学び、地域に誇りを持つ児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価 ・各行事ごとでの反省等の話し合いができており、成果と課題が明確にすることができている。 ●地域とのつながり ・各学年で地域学習を計画的に行い毎年継続できている。また、それが地域についての理解につながっていくことができている。 ・地域学習は、明城の大きな特徴でもある。児童の地域理解・愛着が深まっている。時間的な制約等課題も多いが、工夫改善していきたい。 ・ミニトライやるは、充実していた。保護者ボランティアを募ることで保護者からも好評で教師の負担軽減にもつながった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミニトライやる」等地域に出かける行事の際には、保護者や地域にボランティアを募り、円滑に計画が進むようにする。
(2) 学校評価の活用に取り組み、学校運営の改善を図る	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員の自己研鑽 ・多種多様なサマースクールを実施し、児童の関心意欲を高め様々な能力の向上に努めると共に、教師の資質向上を図る。 ・校内外の各種研修・研究会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。 ・一人一授業を実施し、指導力向上を図る。 			
(3) 教職員の資質向上に取り組み、学校の組織力向上に努める	3				

教育目標

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの『あ』…「あいさつ・あつまり・あしまつ」ができるようポスターや放送で呼びかけると共に、学級指導、全体指導を行う。 ・児童理解研修等を通し子どもの内面理解に努めると共に、良好な人間関係づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアの高齢化等による課題が出てきている。 ・「あつまり」については、いつもよくできている。 ・「あいさつ」と「あしまつ」については、個人差が大きく、さらに十分に徹底していきたい。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・校門でのあいさつ運動やポスターの掲示、教職員からの積極的な声かけ等を行うことで、「あいさつ」と「あしまつ」の徹底を図る。
(2)教育目標の具現化と指導の充実	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲を高め、学力の向上をめざし、授業内容・指導方法の工夫改善を図る。 ・安全安心な学習環境づくりに取り組む。 ・体育の授業の充実や休み時間での外遊びを奨励など、健康増進と体力向上を図る。 ・行事や地域と関わる学習を通して、保護者や地域に信頼され魅力ある学校づくりを進める。 			

研究テーマ

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間をはじめ、道徳教育を充実させる。 ・研究推進委員会と研究全体会を実施すると共に研推だよりを発行し、職員の共通理解を図り、全校一致で系統立った学習活動を展開する。 ・研究授業を行い、事後研究等で研究テーマの具現化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を学年で話し合い、計画的に進めている。支援方法や指導方法の研究・充実を図りたい。 ・授業の実践研究だけでなく、道徳教育の最近の動向や理論などについて学ぶ必要性を感じる。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘し、道徳教育について研修を深める。 ・兵庫県版副読本、こころのノート等を活用した授業や他の教材についてもさらに教材開発と活用を進めていく。
(2)研究テーマの具現化と指導の充実	2.7				